



認定特定非営利活動法人

RASA-Japan ニュースレター

理事長 藤井典夫

〒468-0014 名古屋市天白区中平2-2627

Tel/Fax 052-803-1649 <http://rasa-japan.com>

e-mail info@rasa-japan.com

2017.7
Vol.25

ごあいさつ

理事長 藤井 典夫



シーランド神父様が作られた RASA の理事長を、平成26年3月から引き受けさせていただきました。神父様は、マニラの MLGSFI の理事長をされています。その団体の活動資金はすべてを RASA の送金で賄っておりました。その折「認定 NPO 法人」を目指しており、資金を受け取る MLGSFI の理事長と、送金する RASA の理事長が、同一人物では審査に影響するのではないかと理事会での意見が大勢を占め、私と交代した次第です。

産業界みんなが頑張った

今から約40～50年ほど前だったと思います。日本の産業界は国際化が進んでいく中、高い技術力、優れた生産技術力、他国より一段と抜きんできた品質確保力のすばらしさを誇っていました。「もったいない」といった資源に恵まれない日本にあって、原価意識の徹底した向上活動、個人の創意工夫提案活動、グループ活動の QC サークル活動など、様々なグループ活動が当時も展開されていました。

その改善活動の発表会などは、当時から業界の垣根を越え、異業種も交えて、地方大会、全国大会が各地持ち回りで開催されていました。各社とも自社の動機づけに役立てたいと考え、社員を見学に参加させていたと記憶しています。

急展開の発展途上国へ進出

労務費が安い中国や東南アジアの低コスト魅力に勝てず一気に日本から企業が進出をしたのも、この頃だったような気がします。当時のフィリピンは東南アジアでは、トップ・ランナーでした。

マレーシア、シンガポールなどと同じように英語が通じるという利点があります。キリスト教徒が90%を超えています。イスラム教のように特別な戒律がありません。税法や会計の仕組みが、アメリカの統治時代の名残で、そっくり残っています。周辺諸国に比べ優位さが明らかです。それが、タ

イに抜かれ、マレーシアに抜かれ、インドネシアにも次々に抜かれてしまったのです。このような時期、私は55歳という、当時の流行語「窓際族」の一人であったかもしれません。

窓際族から企業戦士へ

55歳になって突然一人でフィリピンに行き現地子会社を設立して来いという命が下りました。用地買収、工場建設、従業員の採用と教育、管理部門の仕組み作り、帳票システム確立、MIC(間接部門のコンピューターシステムなど)、売上代金の回収、仕入れ代金の支払方法等3年でという大きな荷物を背負わされました。

要するに、ゼロスタート。3年間で生産開始をしろということでした。

設立申請書類全てが独特の役所言葉による言い回しがあり、たくさんの書類作成に苦労した思い出がよみがえりました。今は、パソコンという便利なものがありますが、タイプライターの書類作成でした。ホテルのビジネスセンターと役所の往復で日が暮れた思い出もあります。会社設立認可が下りた時の感慨は格別な思いがありました。

続いて銀行口座開設を急がなければなりません。早速、設立総会を開催し、その議事録などを携えて口座を開きました。待望の資本金が株主から振り込まれ始めたときの嬉しさは、苦労した自分だけの宝物でした。

進まないフィリピンの教育環境改善

何故トップ・ランナーだったのがドンケツを走っているのか？政治家の怠慢なのでしょう。

日本をはじめ、欧米各国やアジア諸国など、ほとんどの国が初等教育(小学校)6年間、中等教育(中学、高校)6年間、大学4年間という教育制度を持っています。フィリピンの初等教育6年間は同じですが、中等教育が4年間しかありません。外国に行っても大学受験を拒否され18歳未満は労働者としても認められないのです。3年かけてやっと2017年の今年から中等教育期間を2年延ばし国際水準に到達させました。しかし、教室も先生も教科書も足りません。ありません。私達はフィリピンの子供の教育普及と飢餓から命を救いたいのです。

今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

TOPIX

◇ 5月6日
ボランティア学生の懇親会
バーベキュー・パーティー
事務所の駐車場にて



◇ 5月7日
ボランティア 体験発表会
平針教会にて



活動報告 2017年4月～7月

- 4月 2018年ボランティア活動募集開始 (チラシ・ポスター配布など)
- 中旬 ①学校建設ボランティア活動 ②給食スタディツアー活動募集開始
- 4月23日～28日 藤井忠子理事 フィリピン出張
- 24,25日 ヌスビル第1小学校 栄養失調児給食事業 次年度計画・契約
8月実施の給食スタディツアーボランティアの活動の打合せ
- 26,27日 CDRCと2018年2月の学校建設予定地の訪問と現地調査
予算に基づく3教室の新設プラン2つ、設計業者と打ち合わせ
行政地区責任者、教育省役人訪問、建設資金協力を呼び掛ける
学校周辺住宅を調査
滞在中のボランティア学生受入条件(安全、衛生)に合うホストファミリー選択を依頼
- 4月30日 CDRCを通して、学校長、建設業者に、相見積を取ってもらうように依頼(メール)
- 5月13日 RASA-Japan 第8回通常総会
- 18日 南山大学で上記①②の説明会 参加学生の体験談等 参加奨励
- 28日 国際センターで、フィリピンフェスティバル 学生体験発表
- 6月3日 国際センターで、NGOセンターの「海外ボランティア合同説明会」出店と体験発表
- 13日、23日 南山大学で上記①②の説明会 参加学生の体験談等 参加奨励
- 7月10日 ニュースレター25号 発送

(RASA定例会の開催 : 4月8日 5月8日 6月9日 7月3日)

活動予定 2017年7月～10月

- 7月16日 平針教会で学校建設の募金活動
- 22日 南山大栄養失調児給食のスタディツアーの参加者の研修
- 23日 南山教会で学校建設の募金活動
- 8月20～27日
ヌスビル第一小学校 給食支援(栄養失調児給食のスタディツアー)
ボランティア活動内容
午前: 100名の給食作り
午後: 3学級に分かれて授業担当や給食用食品の調達、子供とのふれあい、
現地地域視察など
- ※学校建設ボランティア活動説明会
南山大学 9月25日 10月3日 12日 20日 24日
相山女学園大学星ヶ丘キャンパス 9月28、29日
相山女学園大学日進キャンパス 10月6日
- 10月14日、15日 10～18時
名古屋栄オアシス21 ワールドコラボフェスタ2017 出展とアピール活動
- 10月末 学校建設ボランティア募集締め切り

2018年学校建設事業の概要 現地調査並びに関係者との協議でほぼ決定

CDRC(6ページで紹介)というフィリピンの全国各地で活動する、非営利団体の仲介で2018年2月実施予定の学校建設事業概要が以下のように決まりましたので報告します。

<建設地>

ブラカン州パンディー地区の小学校 (Pandi Residence Elementary School)
マニラの東北に位置し、フィリピン政府が首都圏に仕事を探しに来て国内難民となった人たちを半強制的に移住させている地区の一つ。

<学校の現況>

首都圏のマニラ市やケソン市などから、他人の土地に無断で住み着いている人たちを、このパンディー地区にも公営住宅(レジデンス)を建設して多くの家族を移住させている。この動きは現在も続いている。ここ3年間で、学童の数が約600名も増加して約2000名に達した。14教室+臨時部屋2つを使い、教室午前と午後の2部授業で対応。今後、継続して移住により児童が増える予定と聞く。

1クラス70~73名を収容する、すし詰め学級。臨時の部屋はコンクリート床に座って、長椅子が机代わり、トタン屋根から太陽熱がじかに当たる。また本来は集会用の舞台も教室に。屋根だけで壁はビニールを垂らし風雨をしのいでいる。職員室は狭くて、半分の先生が廊下に机を並べて執務している状況。学校の敷地も広くはない。

<学校の希望>

RASAに3教室を建設してほしい。政府は当てにできない。敷地が狭いので平屋建てでも将来2階建に増築できるように強度を持たせた柱での施工を希望。長年学校建設を依頼してきた建築家Signey氏がRASAの予算内で、2階建ても可能な仕様で見積書を送ってきた。トイレが7つしかないため、日々問題が出ているので、RASAもできる範囲でトイレ建設を支援したい。

<RASAからの提案と要望>

学校の希望は現地訪問してよく理解した。トイレ増設も希望に添えるように努力するが、RASAの予算にも限りがある。とりあえず、支援事業は支援を受ける側も何らかの資金補填の動きをすることが、本来の支援の在り方。学校、地域、PTAが協力して市の行政に不足予算の補てんを依頼したが、結果貧困度が高く困難と返答してきた。念書を取り付ける努力をしてほしい。

「学校建設作業に大学生を中心としたボランティアを大勢参加させる。彼らが安心して安全にホームステイできるよう既に渡してあるマニュアルに沿ったホスト・ファミリーの確保に万全を尽くしていただきたい。」と要望しています。



《写真中央の舞台は教室です》



《黒板の前
土間に座る生徒が勉強する》



《外の通路が先生方の職員室》

定期総会を終えて

去る5月13日、第8回定期総会が無事終了いたしました。この一年間の活動を、理事の方や会員の方々と振り返りました。

その時のご指摘や反省を次に必ず生かしたいと思います。

1 財政の状況

今年の財政状況は、次のページの会計報告にありますように、保有資金が約1,180万円という資産額を保有することとなりました。

この裏側には事務所で働いてくださっている方々が、交通費すら辞退され、無給、手弁当で奉仕されていることをご報告申し上げます。

この資金は次の学校建設などの事業に充当されます。この一年間、「認定NPO法人」にかかわってくださった事務所の方々に厚くお礼を申し上げます。審査のとき事務所に来られた役所の方に、その後もたびたびお会いする機会があり、「RASAに対する率直なイメージ」を尋ねてみました。「海外の恵まれない人のために大変なことを少人数でこなされ、コツコツと活動していることは他の団体さんにはない良さを感じております。」とのことでした。

2 学校建設事業が出発直前で

延期の通知

会員の皆様には「事業報告書」でも報告させていただいておりますが、今年の2月に計画した学校建設活動が、出発の直前、突然3月以降に延期となったとのメールが届きました。

先方の教育省に「建設活動とボランティア活動は、同時並行でなくては意味がない」ため契約書撤回と費用の全額支払拒否を連絡しました。活動直前の最後の研修会を翌日に計画しておりました。活動を中止し参加費全額を返金することも覚悟のうえで、研修会に臨みました。すでに支払っている多額の航空運賃は一円も戻りません。ボランティア学生のこの事件に対する反応は極めて冷静でありました。出発準備は完了。

現地のホストファミリーも決まっている。建設作業は予定地の整地作業がある。「出かけましょう！」というわけで一人の辞退者もなく、引率者4名学生21名総数25名で実行しました。

3 日本語教室が大好評

現地ではホストファミリーと学生の相性が素晴らしく、すべて順調に運びました。学生から何の不満もなく、和気あいあいでのホームステイ生活を過ごしていました。

建設活動は、建設地の整備作業になってしまいました。整備作業だけでは学生の不満につながりかねません。その夜、何かほかのプログラムはないかを考えているとき、ホストファミリーが私のところへ一冊の本を見せにきました。

見ると英語版の「日本語」というタイトルの本で、わかりやすく、系統だった内容でした。

これだ！と思いました。日本からB1サイズの用紙を少し多めに持参しておりました。もちろんマジックも…。翌日早速班長の学生達と協議し、中・高等部の中学18教室全てで日本語教室を開催することで校長と話し合いました。

授業は早朝の部と午後の部の2部制でしたから、早朝の部の時は、早起きに苦勞しておりました。

学生たちの教材づくりは見事なものでした。

教材も学生たちの意見で作成し、共通の教材を作りました。各班ともリハーサルをしっかりと繰り返し、いざ50分授業の本番となったのです。

日本の大学生に学ぶフィリピンの中学生たちが目を輝かせ真剣なあまり、前のめりになって、日本語に取り組む姿を見て胸にこみあげてくるものを感じました。この日本語教室は、教える側の日本の大学生と、学ぶ側のフィリピンの中学生たちが私語もない真剣そのものでした。リハーサルが良かったことに加え、ゲーム感覚も取り入れた大学生たちの生きた授業への取組みは異国の子供たちに大きな感銘を与えました。

(文責:藤井 典夫)



校舎建設地の整備



熱心に日本語の勉強

平成28年度 特定非営利活動に係る活動計算書

平成28年4月1日～平成29年3月31日まで

単位:円

科 目	前期決算	当期決算	備 考
I 経常収入の部			
1 会費・入金会収入	290,000	260,000	会員の年会費
1) 正会員会費収入	290,000	260,000	
2 事業収入	10,120,000	6,280,000	学校建設ボランティア
1) ボランティア派遣事業	10,120,000	6,280,000	
3 補助金等収入	1,516,604	2,825,818	
1) 受取助成金	1,500,000	2,807,000	手を貸す運動Ⅱより
2) 受取補助金	16,604	18,818	グッドウ社
4 寄付金収入	3,650,547	3,955,486	
1) 寄付金収入	2,371,223	3,955,486	
2) ブロック支援寄付	279,324		
3) 鉄筋支援寄付	1,000,000		
5 雑収入	239,186	14,849	
1) 受取利息	1,147	121	銀行利息
2) 雑収入	238,039	14,728	
経常収入合計	15,816,337	13,336,153	
II 経常支出の部			
1 事業費	11,875,740	6,523,931	
1) 学校建設事業	10,561,341	3,014,954	
2) 栄養障害児救済事業	1,314,399	3,508,977	
2 管理費	1,716,383	2,086,501	
1) 会議費	194,496	224,305	会議用飲食等
2) 旅費交通費	666,929	844,177	航空運賃等
3) 通信運搬費	139,109	161,602	郵送料等
4) 消耗什器備品費	59,480	35,698	
5) 消耗品費	236,600	427,446	事務用消耗品等
6) 賃借料	307,450	312,300	駐車料他
7) 諸会費	6,000	6,000	
8) 租税公課	400	3,470	収入印紙等
9) 雑費	105,919	71,503	振込手数料等
経常支出合計	13,592,123	8,610,432	
経常収支差額	2,224,214	4,725,721	
III 経常外収益 計	0	0	
IV 経常外費用	0	0	
当期収支差額	2,224,214	4,725,721	
前期繰越額	4,833,310	7,057,524	
次期繰越収支差額	7,057,524	11,783,245	

コメント (1) 今期は手を貸す運動Ⅱ様より栄養障害児救済事業に多額の助成金を頂き、今期6月より100名の栄養障害児童の救済事業を実施しました。

(2) 現地の都合で学校建設が延期になり、今期の学校建設事業費は減少した。(文責 寺尾嘉泰)

CDRC

これからのRASAのフィリピンの活動において欠かせない現地実状に即した支援をするため提携する団体(Citizens Disaster Response Center の市民の災害対応組織略名)

2018年2月の学校建設とボランティア派遣事業で新たに協力を得ることになった信頼できる団体です。

(支援) 1984年に設立以来非営利で、国の多くの場所に拠点を持ち、自然災害時に被災した人々をスピード感をもって支援を行う地域密着型の団体です。

(実績) 海外からの多くの支援があり、国内の豊富なネットワークとプログラムで、300万人の人々を助けた。日本のODAもバックアップしている。

(ポリシー) 富の分配を平等にできる社会を目指し、人々が福祉や経済安定を得られ、また今度は自分の国の発展に貢献する社会。弱い不安定な部分を支援し、社会的弱者(子供、女性、お年寄り、障害者)に特別の配慮をする。



教育省の役職者・校長・副校長・CDRC役員と藤井理事



教室増設の陳情にきた親たち

給食に選ばれた栄養障害のこどもたちと家

撮影 2017. 1



給食支援事業

欠食児童の給食支援プログラム 昨年6月スタート 2017年4月 現地からの報告

担当先生が 1500人の欠食児童から選んだ児童5、6年生50人ずつのデータ

I. なぜ5年生と6年生なのか

5、6年生だけが朝7時から16時まで全日授業。昼食が食べられない児童は欠席したり、空腹で授業に集中できない。何とか卒業して、ハイスクールに進学、自立できる基礎教育を目標に！！

II. 体格

BMIによる区分	5年生		6年生	
体位（体重kg/(身長m) ² ）BMI	男	女	男	女
ひどい痩せ（BMI13.5未満）	1 1	8	8	8
痩せ（13.5～14.49）	5	4	6	6
まあ普通4（14.5～15以上）	1 0	5	8	8
普通（15.5以上）	4	3	6	0
合計	3 0	2 0	2 8	2 2
平均体重(年齢差あり)	21.66kg	21.30kg	23.21kg	22.18kg
体重差	16～34	16～33	20～37	20～25

給食開始から1年後には全員が普通の体位に向上しています。

今年から毎食ビタミンとミルクを支給実施

III. 家族の仕事と収入 一世帯当たりの子供の人数（6年生の場合）

父の仕事	数	収入額	母の仕事	数	収入額
日雇建設作業員	14	6000ペソ	家事	42	5000ペソ
運転手	5	5000	手伝い	1	4000
移動販売	7	5000	工場労働者	1	5000
工場労働者	2	7000	商売	2	5000
電気関係仕事	1	5000	ヘルパー	1	4000
労働者	4	5000	死亡	3	
警察官（地区）	1	8000	合計	50	
大工	3	5000	子の数/1世帯		
不能者	6	0	最 多	7	
無	4	0	最 少	3	
死亡	2		平 均	5.28	
合計	50	1 ペソ；2.35円	父親が無収入などで母親が働いている		

IV. 同学年での年齢差

5 年生		6 年生	
年齢	人数	年齢	人数
8	0	8	1
9	1 2	9	0
1 0	2 3	1 0	1 0
1 1	6	1 1	2 6
1 2	4	1 2	8
1 3	2	1 3	4
1 4	3	1 4	1
合計	5 0	合計	5 0

年齢差の理由①就学年齢が遅い・理由は親が仕事がなく病弱などで働かせる。子どもが虚弱で欠席する。
②進級できず、留年 出席日数が不足 進級テストに不合格

V. なぜ制服なの？ 公立も私立と同様に制服 学校は貧富の差を制服着用で差別を避け、通学や向学への気持ちを大切にしている。



ご寄付のお願い

RASA-Japanはフィリピンでの学校建設を1999年以降、累計28棟を599名のボランティア参加により建設してまいりました。これからも継続してまいります。RASAはフィリピンにおける学校建設の有力な資金提供団体です。増設要望が多く来る中、願いをかなえたいと奮闘しています。現地の教育関係者からの要望に応えるため、RASAは毎年建設費として、最低500万円を予定しております。

全額皆様のご寄附によって成り立っています。皆様のご支援があつてこそできる活動です。フィリピンの恵まれない教育環境の子どもたちに、なにとぞ力をお貸しください。

認定NPO法人への寄附金特別控除(税額控除)

その年中に支出した認定NPO法人に対する寄附金合計額から2千円を控除した金額の40% 相当額(所得税額の25%相当額を限度)を、その年分の所得税額から控除できます。

《算式》

$$\left(\begin{array}{|c|} \hline \text{認定NPO法人に対する} \\ \text{寄附金額の合計額} \\ \hline \end{array} - 2 \text{ 千円} \right) \times 40\% = \text{税額控除額}$$

例 5万円寄付の場合 (50,000-2,000)×40%=19,200

19,200円が税額控除されます (他に住民税が約10%減額されます。)

税額控除を受けるためには...

確定申告書にて控除申請をお願いします。

・添付資料として、「寄附金受領証明書」が必要です。RASAで発行送付いたします。

ご寄付の際、振込取扱票の発行希望欄「はい」に○印をお付けください。

【注】寄附金に対する措置には上記〔税額控除〕のほか、その年分の総所得金額からの〔寄附金額控除〕の方法を選択することもできます。

ゆうちょ銀行からのお振込み

【振替口座】 ゆうちょ銀行 00890-4-31185
【振込名義】 特定非営利活動法人RASA-Japan

普通銀行からのお振込み

【振込先銀行名】 ゆうちょ銀行
【支店名】 〇八九
【口座種別】 普通 【口座番号】 31185
【受取人名】 特定非営利活動法人RASA-Japan



ボランティア参加学生同士の交流
サイトのマスコット。 ラサと
サルを合成、ラサルくんです

編集後記 ニュースレター25号をお届けします。

定例総会(5月13日)後、新年度の事業がスタートしています。8月のFeedingProgramは、14名の参加予定となりました。来年2月の学校建設支援も現地との詰めを進めています。また、ボランティアの学生募集も始まりました。チラシの配布、説明会の開催、具体的な活動が進んでいます。

みなさまに支えていただき、スタッフ一同、本年度もしっかり取り組んでまいります。

本号は、その一部なりともご報告として編集しました。



理事長を囲んで理事、事務局一同です